

感動の2日間 ---2月28・29日の記録

今年の芸術祭は、お茶席や各団体の趣向を凝らした力作に加え、特別展示の「鹿子頭」、新参加の2団体も加わり、多くの来場者に楽しんでいただいたと思う。

展示部門は、シンプルを基調に空間を活かしながらも淋しい印象にならないよう、お迎えの花で華やかさを出した。

初の試みの「体験コーナー」は、来場者が見るだけでなく参加することで、より興味を持ち楽しんでもらった。また会場の雰囲気も盛り上がり、その点でも大変よかったと思う。

展示部門統括 荒木美智子



7月・狭山の夏祭り「絵草紙さやま」

短期間で色々準備することが多く、戸惑うなか多くの方々の方々の力添えをいただき、舞台を無事終了することができました。

演出・舞台監督をそれぞれ副実行委員長、事務局長が、そしてすばらしいプロ集団の方々による照明・舞台進行、またオブジェの一部として高価な楽器（個人所有）や一般商店からの小道具を快くお貸しいただきました。裏方も少人数ですみ、出演者の確認、招集等スムーズに行うことができました。

テーマに沿って「旅日記」という物語風に、北海道から沖縄まで、出演団体がそれぞれの持ち味を生かした出し物で、ご来場いただいた方々に喜んでいただけたことと思います。

欲を言えばもう少し多くの方々に観ていただきたかった！集客方法を考えるべきかなと思います。

「邦楽の祭典」統括 中島 かよ子

どうにか緞帳をおろすことができ、ホッとしています。

大ホールの2時間余の舞台が、なんとか幕をおろせたのは、「絵草紙さやま」に関わって下さった団体・個人の皆様方の大きな支えがあったればこそと感謝申し上げます。

出来の良し悪しはともかく、舞台づくりのシロウト4人がメインスタッフとして、戸惑いながらも手作りで一つの舞台を仕上げられたことを、皆様方と共に喜びあいたいと思っています。

「絵草紙さやま」統括 武内 哲朗



上信越「越後獅子」(邦楽の祭典)

第4回 狭山市民芸術祭協賛者(追加)

次の方に協賛をいただきました。

紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

・内田 寿仙